

2004年度 クリスマス献金プロジェクト実施報告

2003年度に皆さまから捧げられましたクリスマス献金により、さまざまな地域社会奉仕・国際協力活動が実施されました。また、これらのプロジェクトの実施にあたり、数多くのボランティアの方々のご協力を得ることができ、感謝いたします。私たちは、「希望を持って共に生きる社会の実現」に向かって一歩ずつ歩んでいます。



ひととき折り紙を楽しむ
<東YMCA 独居高齢者との交流「ふれあいサロン」>



みんなの協力で一体感が生れた
<北YMCA「障がい者・児および家族ボウリング大会」>



しゃぼん玉、とんだ？
<北摂YMCA地域とともに子どもを育む活動「なごよしらんど」>



陽だまりの中、息の合ったお餅つき
<高槻YMCA情緒障がい児の体育活動「けやき」>



力作が勢ぞろい！
<堺YMCA障がい者の方々の社会参加活動「障がい者作品展」>



この出会いから始めよう
<堺YMCA国際平和への理解を広める交流活動「ピースキャラバン-平和講演会」>



どろんこ遊びはメッチャ楽しい！
<土佐堀YMCA「軽度発達障がい児サマーキャンプ」>



タイ カレン族の子どもたちと手話ソングを歌う
<土佐堀YMCA「学生YMCAワークキャンプ」>

南YMCA「アジア学院関西研修受入れ」

南YMCAでは、栃木県にあるアジア学院の「アジア・アフリカの貧しい農村で、地域の人々と共に働くリーダーを養成する」という使命に賛同し、関西研修旅行の人権をテーマとした研修プログラムとホームステイに32年継続して協力しています。今年は引率スタッフも含めて30名を受け入れました。普段はアジア学院の施設内で共同生活をしている研修生にとってこの関西研修は、日本社会が抱える諸問題について実際に見聞きし、一般家庭の様子を知ることができる貴重な機会となっています。そして、受け入れるボランティアにとっても「自国の課題（人権、同和、高齢者福祉、青少年育成への取り組みなど）」を改めて見なおす良い機会となっています。



今年度は、南YMCAボランティアグループWachacha-Clubが中心となって歓迎交流パーティーを開き、約100名のボランティアと参加者が交流を深めました。課題別研修は、「南YMCA（日本語学校・通信制高校）」、「サンホーム」、「釜ヶ崎」、「関西ののちの電話」の4箇所を訪問し、交流と研修の時を持ちました。ホストファミリーからは、「日本に居ながら違う国の貴重な文化を体験させてもらった」「是非また受け入れたい」という声が多数あげられていました。今後もこのような出会いの場を提供し、共に抱える課題に取り組んでいく学びの場を持ちつづける努力をしていきたいと思ひます。
(南YMCA 山本由香)

北YMCA「キリスト教理解講座」

北YMCAでは、キリスト教理解を深めるために、毎月第一火曜日に日本キリスト教団豊中教会において「会員礼拝」をおこなっています。これは、YMCAの諸活動がキリスト教を基盤としていることを、礼拝を通じて理解していくことを願って2002年度から始められたものです。礼拝では豊中教会の三谷牧師と本竜伝道師が「子ども」や「自然」などのテーマを通して聖書の言葉をわかりやすく話してくださいます。また、司会や奏楽は、運営委員・ボランティアリーダー・スタッフが交替で担っています。奏楽を担当するリーダーは普段弾くことのない讃美歌を一所懸命練習し、司会を担当するスタッフはいつもと違う雰囲気緊張しながらもそれぞれが礼拝を通じて「祈り」の大切さを実感しています。参加会員や子どもたちにイエス・キリストの愛と奉仕の生き方を伝え、実践していく私たちがYMCAの「C」を学ぶ場としてより多くの方々に参加していただきたいと思ひます。
(北YMCA 大橋昌美)



徳島YMCA「あすなるクラブ」

毎週土曜日、徳島県内に在住の自閉的傾向のある子どもたちとその家族を対象とした親子体育教室を開催し、今年で11年目を迎えます。第1・3土曜日は幼児～小学生が6組、第2・4土曜日は中学生・高校生10組ほどの親子が体育活動を楽しんでいます。プログラム内容は、『身体を動かすことの楽しさを知る』ことを目標に、ストレッチや鬼ごっこ、リレーや手遊びなど実に多彩で、ボランティアリーダー13名が企画し、取り組んでいます。突然走り出す子どもを懸命に追いかけるリーダー。運動の苦手な子どもの後押しをしようとするリーダー。片時も子どものそばから離れないリーダー。そんな彼らのひたむきさが、子どもたちだけでなく保護者の方々にも伝わり、この活動に対して理解を示してください、熱心に関わってください。子どもたちは、この活動によって運動量が確保でき、跳び箱や平均台、なわとびといった種目運動に取り組むきっかけにもなっています。また、季節ごとに徳島の自然の中へ出かけ、ハイキングしたり、野外料理をしたり、時には、阿南国際海洋センターを利用したキャンプに行ったりと、活動の場を広げています。今後も関わるすべての人々が共に成長し合える活動にしていきたいと思ひます。
(徳島YMCA 西川勝久)



土佐堀YMCA「自立支援シンポジウム」

軽度発達障がいの子どもたちが、義務教育を終えて進路を選択し社会に出ていく際、少しでも社会に適應していくために今できることを考える「自立支援シンポジウム」を2月6日(日)南YMCAホールにて開催しました。5回目を迎える今回は軽度発達障がいの子どもたちの抱える心の問題と、それに対して必要なサポートについて、まず品川裕香氏に提言していただき、教育の立場から竹田契一氏、医療・心理の立場から田中康雄氏にお話をいただきました。近年、軽度発達障がいへの理解が社会にも浸透してきたこともあり、当日は保護者、教育関係者、医療関係者など総勢230名の参加がありました。また、ボランティアリーダーも多く参加し、子どもたちへの関わり方をともに学ぶ機会にもなりました。今後もこのシンポジウムを軽度発達障がいの子どもたちの居場所作り等、さまざまな課題に取り組んでいく機会としていきたいと思ひます。
(土佐堀YMCA 細谷麻子)

